

「国宝」とその周辺を巡る整理

館長：岸 善一

今年に入ってから文化財に関する大きなニュースを拾うと、4月の日本遺産認定(18件)、5月の松江城天守の国宝指定、7月の「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録が挙げられます。

そもそも、「国宝」とか「世界遺産」、「日本遺産」とはどういうものなのか、整理してみましよう。

まず、「国宝」について。明治30年制定の「古社寺保存法」では、国宝は「宝物」(時代を越えて伝来した社宝、寺宝、御物、家宝)だけに適用し、建造物は「特別保護建造物」としていました。国宝となるためには「歴史ノ証徴」か「美術ノ模範」であることが必要な条件とされていました。しかし、昭和4年制定の「国宝保存法」で、建造物も宝物も国宝に一本化されました。さらに、大転換が図られた昭和25年制定の「文化財保護法」では、その定義で「宝物」を排除し、代わりに「文化財」を取り入れ、すべての国宝を重要文化財とみなすとされます。文化財を保存だけでなく、その活用を図り、国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを視野に、単なる歴史や文化の見直しにとどまらない、日本社会の見方の大きな変更が読み取れます。

現在、「文化財」は「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「記念物」「文化的景観」「伝統的建造物群」、そして「埋蔵文化財」と分類されています。

ここまで整理すると、「国宝」は「宝物」に「建造物」が加わった時期を経て、「重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもの

で、たぐいえない国民の宝たるもの」に変わったということがわかります。ただし、「国民の宝」とするには伝承や推測だけでは不十分で、歴史的証拠や美術的価値が必要であることを忘れてはなりません。こうした厳しい審査があり、発見から20年を経て『縄文の女神』は国宝に認定されています。

次に、「世界遺産」と「日本遺産」について。平成4年に日本政府が「世界遺産条約」批准します。同年、文化遺産と自然遺産から成る世界遺産に「文化的景観」という概念が盛り込まれ、「複合遺産」というカテゴリーも後に誕生します。基準も厳しいものがありますが、現在、日本には「世界遺産」が19件登録されていますが、御存じでしょうか。(恥ずかしながら、私は半分もあげられませんでした。)

文化庁が提唱する「日本遺産」(地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリー)は、5年後の東京オリンピックまで100件程度認定する予定とされています。「ストーリー」があれば(つくれば)、認定の可能性があるということになります。文化財から文化遺産へと展開してきた中で、地域の活性化と観光が重視されるようになったことを顕著に示しています。

こうしたニュースに耳を傾けながらも、「未来に伝える山形の宝」である、国宝『縄文の女神』を含む県内各地に由来する大切な文化財を、次世代に引き継ぐ仕事を着実に進めなければならないと思いを新たにしています。県民の皆さんの郷土愛醸成に少しでも貢献できるよう願いながら…。

企画展の展示報告

企画展「やまがたの凧」

平成 27 年 2 月 28 日（土）～ 平成 27 年 5 月 10 日（日）

平成 27 年 2 月 28 日より 62 日間の会期で開催された企画展「やまがたの凧」でしたが、一日平均約 140 名の来館者にご覧いただきました。山形の本来の凧揚げシーズンに時期を合わせ、山形花泉凧 4 代目・阿部太彦氏のご協力をいただきながら凧つくりの体験イベントを実施し、子どもからお年寄りまで楽しんでいただける展示を工夫しました。

第一部「凧揚げと凧つくり」では、阿部太彦氏による山形花泉凧の製作風景を中心に、様々な願いが込められた色鮮やかな凧の数々を展示しました。第二部「やまがたの凧」では、村山、置賜、田川、飽海、最上それぞれの地方で発達した特色ある凧の数々を展示しました。県有形民俗文化

財指定の隠明寺凧など全国的に有名な凧のほか、個人所蔵の原広吉製作凧や大旗、版木、下絵など、通常ではなかなか目にすることが難しい資料にも興味を持っていただき好機となりました。第三部「凧のある風景」では、屏風や浮世絵版画のなかに描かれた凧揚げの様子を紹介し、昔の山形の凧揚げに思いを馳せました。

地元の方はもちろん、北は北海道から南は佐賀県まで多くのみなさまに「やまがたの凧」をご覧いただき、一つの県でも地方ごとに多様な文化があることや庶民の身近にあった文化に目を向けていただく貴重な機会になりました。この場をお借りしてご協力いただいたみなさまに厚く御礼申し上げます。

プライム企画展「『縄文の女神』と『遮光器土偶』 —縄文の美と宝—」

開催期間：平成 27 年 5 月 30 日（土）～ 平成 27 年 9 月 6 日（日）

本展示会は、県の代表的な宝である「縄文の女神」などの土偶に焦点をあて、観光イベントであるポスト DC（デスティネーションキャンペーン）にあわせて開催されました。

第 1 部は「プロローグ-『縄文の女神』誕生と西ノ前遺跡」、第 2 部は「縄文中期の土偶たち」、第 3 部は「縄文晩期の土偶たち」、第 4 部は「エピローグ-縄文のくらしと道具-」と題し、東北の土偶を中心に展示会を企画致しました。

記念講演会は、（公財）山形県埋蔵文化財センター専門調査研究員の菅原哲文氏、早稲田大学教授の高橋龍三郎氏をお呼びして行いました。体験イベントは、1 回目は「ペーパークラフトで縄文の女神をつく

ろう」と題し、山形県教育センター指導主事の齋藤秀志氏と県立村山産業高校の生徒の皆さんを講師にお迎えし、2・3 回目は「縄文の女神をつくってみよう」と題し、舟形町わかあゆ薫風窯の金寛美氏を講師に迎え実施しました。

期間中、13,691 名（一日平均 156 名）もの入館者が県内外から訪れ、大変賑わいました。



展示解説会の様子



体験イベントの様子

企画展の展示報告・ご案内

特別展「蝶と蛾 ―妖精たちのつどい―」

開催期間：平成27年9月19日（土）～平成27年11月29日（日）

今回の展示は、蝶と蛾の美しさや多様性を表すことをめざし、標本箱は約500箱、個体数で30,000以上の展示となりました。山形県立博物館で収蔵している多くの蝶と蛾の標本の内、蛾の大部分は木俣繁氏の寄贈によるもので、特に多くの種を含む蛾にも注目してもらうように展示しました。ヤガ、ヒトリガ、シャチホコガ、シャクガ、スズメガ、ヤマユガなど大型の蛾は蝶にも負けない美しさがありました。世界各地の蝶も多くの方々より寄贈いただいでいて、東南アジアを中心に分布するトリバナアゲハやその他のアゲハ、ユーラシアのパルナシウス、南米のモルフォチョウやドクチョウなどを展示しました。さらに、県内

の研究者の協力を得て生態写真を多数展示することができました。

会期中1日平均約190人の来館者があり、展示をご覧いただき大変感謝しています。アンケートではほとんどの方より良かったとの評価をいただきました。また、県外からも多数来館いただいたことがわかりました。この間3回の「展示解説会」、横倉明氏の講演会「昆虫の不思議」を開催し多数の参加者がありました。この展示会や講演会を期に多くの方々から蝶と蛾に関心を持っていただけたと思っています。



共同企画展「私たちのたからもの」 ―モノから振り返る昭和の暮らし 終戦まで―

開催期間：平成27年12月12日（土）～平成28年2月14日（日）

山形県立博物館と山形県立博物館友の会の共同企画展「私たちのたからもの」は7回目を迎えます。今回は、昭和初期から終戦までにスポットを当てます。友の会会員の所蔵している「たからもの」や県立博物館が収蔵している「たからもの」の数々から、当時の暮らしと文化を振り返ろうという試みです。昭和初期の家電製品など、日常風景を伝える様々な資料を展示します。展示会を通して、私たちの身の回りにもある「たからもの」に目を向け、郷土やまがたの歴史・文化を大切に伝えていく心が生まれることを願っています。期間中には、講演会やシンポジウム、会員による展示解説会を開催します。ぜひ、昭和はじめ

の暮らしを語る「たからもの」の数々をご覧ください。

講演会：

① 12月12日（土） 13時30分～

「山形謄写印刷資料館のガリ版印刷機材資料と謄写印刷名人たちの作品について」 山形謄写印刷資料館 館長 後藤卓也氏

② 2月7日（日）13時30分～

シンポジウム「モノから振り返る昭和の暮らし 終戦まで」

展示解説会：

12月26日, 1月9日, 1月16日, 1月30日 各土曜日 13:30～



ご来館団体（平成 27 年 4 月～平成 27 年 10 月）

県内学校関連

朝日町：宮宿小学校 **飯豊町**：手ノ子小学校 添川小学校 **大石田町**：大石田小学校 大石田北小学校
大江町：左沢小学校 本郷東小学校 **大蔵村**：大蔵小学校 **尾花沢市**：玉野小学校 **金山町**：有屋小学校 金山小学校 明安小学校
河北町：谷地南部小学校 **上山市**：西郷第一小学校 南小学校 **川西町**：中郡小学校
寒河江市：寒河江小学校 寒河江中部小学校 幸生小学校 柴橋小学校 白岩小学校 高松小学校 南部小学校 西根小学校
鮭川村：鮭川小学校 **庄内町**：余目第二小学校 **新庄市**：沼田小学校 萩野学園 **高畠町**：第二中学校 二井宿小学校
鶴岡市：大泉小学校 加茂小学校 朝暘第一小学校 鼠ヶ関小学校 藤島小学校
天童市：荒谷小学校 天童中部小学校 天童北部小学校 干布小学校 **戸沢村**：戸沢小学校 **中山町**：豊田小学校 長崎小学校
長井市：伊佐沢小学校 **南陽市**：梨郷小学校 宮内中学校 **西川町**：西川小学校
東根市：大森小学校 小田島小学校 長瀬小学校 東根中部小学校 **真室川町**：真室川小学校
村山市：袖崎小学校 楯岡小学校 戸沢小学校 **最上町**：大堀小学校 富沢小学校
山形市：蔵王第一小学校 鈴川小学校 第二小学校 第六小学校 第七小学校 東沢小学校 南沼原小学校 南山形小学校 宮浦小学校
本沢小学校 蔵王第一中学校 第五中学校 第六中学校 霞城学園高校 マイン高等学院山形キャンパス 山形市立商業高校
山形学院高校 明德福祉専門学校 東北文教大学 **山辺町**：相模小学校 作谷沢小学校 山辺中学校
米沢市：窪田小学校 南部小学校 広幡小学校 三沢西部小学校 南原小学校 米沢工業高校 米沢養護学校やまなみ学校分教室

県外学校関連

宮城県：仙台市立第二中学校 仙台市立広瀬中学校 仙台市立南光台中学校 東北高校 東北生活文化大学高校
東北大学大学院文学研究科考古学研究室

その他

山形県：あおぞら幼稚園 遺跡が語る山形の歴史刊行会 いちよう子どもクラブ うきたむ風土記の丘考古資料館
小国町教育委員会事務局 河北町立谷地六区町内会 上山市中部地区公民館 上山市南部地区公民館 河越館の会
旧大石田高等学校郷土クラブ 0B・0G 会 江南公民館 こまくさ学園 酒田市平田さしこの会 JA 山形蔵王支部女性部
児童デイサービス「月のひかり」 新江俣新生会 広幡学童保育げんきっ子クラブ 双美保育園 舟形町教育委員会 プンザイムズ
ほほえみ保育園 山形県私立高校教頭会研修会 山形考古学会 山形市観光協会 山形市教育委員会 山形市郷土史研究協議会
山形市中学校教育研究会 山形市南沼原コミュニティセンター運営協議会 山形第一小学校 PTA 山形大学附属博物館
米沢市広幡コミュニティセンター
宮城県：七ヶ浜町歴史資料館 明治青年大学 42 期同期会
秋田県：秋田県立博物館友の会 **岩手県**：NPO 法人一関文化会議所 **福島県**：白河市中央公民館 **東京都**：楓会 **長野県**：長野県議会

友の会ご案内

山形県立博物館友の会は博物館事業を支援し、地域文化の発展に貢献するとともに、会員相互の交流を図ることを目的とする。

- ◆主な活動 会員の学習と交流（講演会・学習会・会報等の発行） 博物館との共同企画展の開催
博物館への協力（教育活動・資料調査・展示・広報活動への協力） 地域への貢献（出版物刊行・販売）
- ◆会員種別 個人会員（年会費 1,000 円） 団体会員（年会費 2,000 円）
家族会員（年会費 1 人 600 円） ※個人会員と住所が同じ家族
- ◆会員になると 会員証の発行 会報・友の会行事案内・催物案内の送付 その他、会員特典あり

山形県立博物館

〒990-0826 山形市霞城町 1 番 8 号

TEL: 023-645-1111 / FAX: 023-645-1112

URL: <http://www.yamagata-museum.jp>

山形県立博物館 教育資料館（分館）

〒990-0041 山形市緑町 2 丁目 2 番 8 号

TEL: 023-642-4397 / FAX: 023-642-4403

URL: <http://www.yamagata-museum.jp/education-museum/>